

1 研修計画の概要

【地方受講可能】一部研修は、地方会場へサテライト配信。
詳細は各コースの案内を参照ください。

1 研修の全体像

【定例研修】

知的財産 専門家を育成	知財技術スタッフ研修: A、B、C、D、Eコース
	知財専門家としての知識、スキルを向上し知財専門家を育成 ●初心者～中堅実務者 → 法律ルールの必要知識を学習 ●上級者～専門家 → 法律解釈、審判決動向など研究
知的財産に 強い技術者 を育成	技術者対象研修: Gコース
	研究開発段階から知財を意識できる、知財に強い技術者を育成 ●新入社員から技術部門マネージャまでの年代別に研修を整備 ●知財知識 + 演習によるスキルアップ
国内・国外の 知的財産権を知る	総合研修: Sコース
	知的財産権をめぐる国内あるいは国際的な環境変化を的確に把握するために必要な重要事項と動向について、最新の情報、豊富な実例により講義
グローバルに 対応	グローバル研修: W、Fコース
	—グローバルコース(Wコース)— グローバル化する企業活動の知財スタッフとして、どのように経営に貢献していくか、支援していくか等を考え、その企業目的を達成すべく知財関連知識を習得する。 —海外現地研修コース(Fコース)— グローバル化対応の知財スタッフを事前・事後研修と現地体験研修によって育成。 ●米国、欧州、中国、インド、アジア
経営的視点を 養う	経営感覚人材育成研修: Tコース
	経営的視点で知財を考え企業経営に知的財産を活かすことのできる知財変革リーダー、知財戦略スタッフなどを育成 ●知財知識だけでなく、経営自体を学ぶ ●自らの意識改革のみならず組織変革を遂行する知財リーダーを育成
ニーズ・話題の テーマ	臨時研修: Jコース
	時代の変化・ニーズに対応した各種の話題テーマに関する研修を実施

【臨時研修 他】

2 協会研修の特徴

この協会研修の大きな特徴は次の3点です。

- **第1の特徴:人物像を踏まえ、体系的な研修である。**
知財に係る人物像とそのための研修コースは前項(1)に示す通りです。
- **第2の特徴:定例化され、毎年開催される研修である。**
約100コースが定例化されています。なお、一部隔年開催のコースがあります。
- **第3の特徴:最新状況に応じてアップデートされた、実学の研修である。**
制度/法改正や社会事情の変化を踏まえ、人材育成委員会が講師や協会専門委員会の協力を得て、研修内容を実学に役立つよう常にアップデートしています。特に臨時コースは、時宜に適った研修の提供と新しい研修の実験として積極的に開催されております。

3 人材育成プログラムの見直しポイント

【改編・新設】C・E・Wコース リニューアル!!

特許権利化のための国内中間処理に関する内容に特化した「C18:知財担当者のための国内中間処理業務」を新設しました。これにより、知財業務に必須の「明細書作成」⇒「出願」⇒「権利化」⇒「権利活用」がラインナップされました。また、定例研修コースとして、「C16:ブランド・ネーミングの実務とテクニック」、「E05:英文契約における交渉とドラフティング」を新設し、コンテンツを充実化しました。さらに、Wコースに「WR1:国際契約ベーシック」を新設、「WR 2: 国際契約プラクティス(旧:WW 26)」を改編し、リニューアルしました。

詳細は各コースのページをご覧ください。

【充実化】特別コース・技術部門向けコース!!

「T01:知財変革リーダー育成研修」より充実した検討 & 討議を狙い、研修期間を1ヶ月間延長しました。
「T02:知財戦略スタッフ育成研修」座学知識の深化を狙い、特別ラウンド(経営シュミレーション、ボードゲーム)を必須化しました。
「マネージャー向け研修」、「中堅技術者向け特許情報に関する研修」を定例化しました。これにより、技術部門向け研修が充実したラインナップになりました。

詳細は各コースのページをご覧ください。

【モデルプラン】営業部門・事務管理部門メンバへのご提案

JIPA研修といえば、知財部門・技術開発部門の方のご利用が中心ですが、会員企業従業員の方であればどなたでもご利用いただけます。今や知的財産に関する知識は、グローバルな事業展開を行う上で、どのような部門で働く方にとっても必須の知識です。
研修ラインナップの中から、知財や技術開発部門以外の方にも自信を持ってお薦めできるコースの一例を紹介しています。

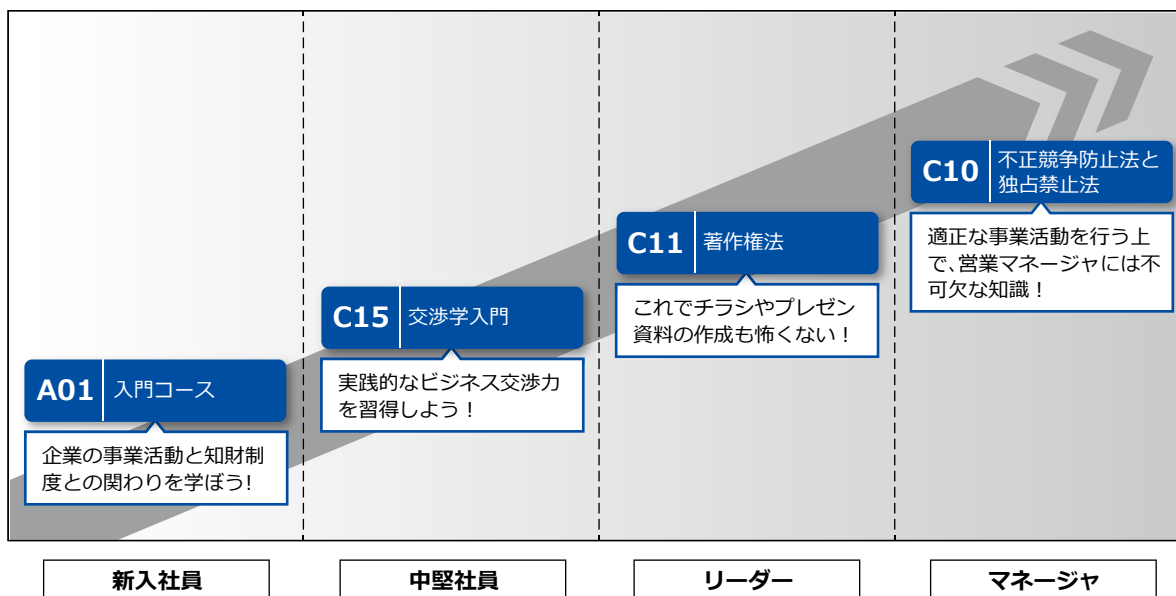
詳細は「知財部門・技術開発部門だけじゃないJIPA研修」をご覧ください。

当協会の研修は、主として知財部門や技術開発部門向けに豊富なコースを取り揃えていますが、今や知的財産に関する知識は、国内外を含めたグローバルな事業展開を行う上で、どのような部門で働く方にとっても必須の知識です。

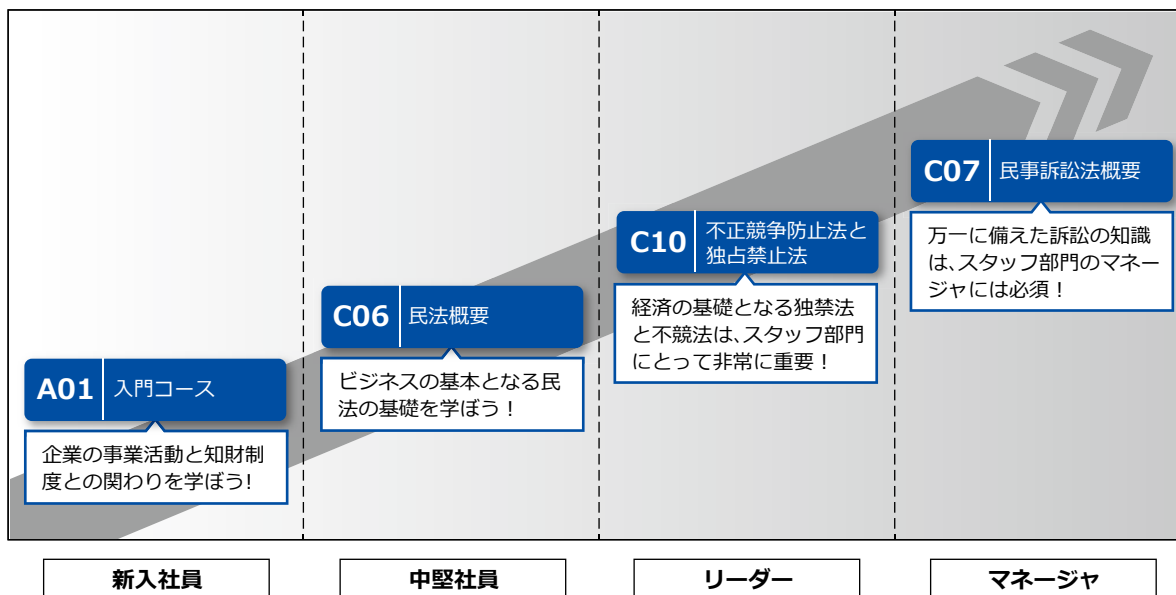
実は当協会の研修ラインナップの中には、知財や技術開発部門以外の方にも自信を持ってお薦めできるコースが多数あります。ここでは営業部門、総務や経理などの事務管理部門の方にとって有益な推奨研修コースの一例を紹介します。

業務の更なるレベルアップを図る機会として、是非一度JIPAの研修コースを体験して頂き、職場の方にも受講を勧めて下さい！

営業部門の方の推奨研修コース



事務管理部門の方の推奨研修コース



2018年度 Wコース「国際契約」のリニューアル

企業活動の多様化によって、昨今、いかなる企業であろうと研究開発や事業化を単独で一貫して実施し完結することが困難です。企業間の連携または産学の連携を通じた共同研究開発またはライセンス活動が不可避となり、技術移転、アライアンスおよびオープン・クローズ戦略を必要とする時代です。このような状況下、海外企業と契約を締結する案件が益々増加すると予想されます。企業は、海外企業との契約実務を任せられる人材を育成すること、事務所へ依頼するとしても、交渉や協議に自社の考えを反映できる人材を育成することが重要です。

JIPAでは、従前から国際契約に関する上級コースの研修会を開催していました。この度、内容を充実させるべく中級コースを新たに設置し、中級と上級との2コースとしました。中級コースを新設しただけでなく、従前からの上級コースについても内容を更新しましたので、過去に受講された方も含めて、多くの皆さまに受講頂きたいと考えております。

リニューアルのポイント

- 中級:WR 1「国際契約ベーシック」基礎事項から、ドラフティング、地域ごとの特徴まで！
- 上級:WR 2 (旧:WW 2 6)「国際契約プラクティス」契約書毎の特徴と留意点！

テーマ 地域・分野	地域別 (法律・訴訟・権利行使 等)				契約
	米国	欧州	アジア	中国	国際契約
中級 レベル	WU 1 米国 特許制度	WE 1 欧州 特許制度	WA 1 アジアの 特許制度	WC 1 中国 知的財産制度	【新設】 WR 1 国際契約 ベーシック
上級 レベル	WU 2 (旧:WU 2 1) 米国 特許訴訟	WE 2 (旧:WE 2 1) 欧州における知的 財産の活用と実務	WA 2 (旧:WA 2 1) アジアにおける 知的財産の 活用と実務	WC 2 (旧:WC 2 1) 中国における 知的財産の 活用と実務	【改編】 WR 2 (旧:WW 2 6) 国際契約 プラクティス

講義課目の紹介(新設コースの一部)

※詳細は各コースのページへ！

WR1 国際契約ベーシック		
3日間		講義科目
1日目	午前	国際契約の基礎
	午後	国際契約の基礎
2日目	午前	国際契約のドラフティング
	午後	国際契約のドラフティング
3日目	午前	米国・欧州・中国の契約書
	午後	米国・欧州・中国の契約書

WR2 (旧WW26) 国際契約プラクティス		
4日間		講義科目
1日目	午前	ライセンス契約
	午後	ライセンス契約
2日目	午前	知財契約(ライセンス契約以外)
	午後	知財契約(ライセンス契約以外)
3日目	午前	契約実務と留意点(弁護士編)
	午後	契約実務と留意点(弁護士編)
4日目	午前	契約実務と留意点(企業実務者編)
	午後	契約実務と留意点(企業実務者編)